

平成16年、西暦2004年の穏やかな新年の幕開けである。今年は、日本各地で初日の出が見られたようだ。朔東から第118号で紹介した大樹町の晩成温泉に出かけた。以下はその体験記である。下の写真は元旦の晩成温泉からの初日の出である。



未だ朝暗き、4時過ぎに官舎を出発、スリッパを気にしつつ、一路大樹に向かう。帯広上空はやや雲が多かったが、南下するに従い雲は殆どなくなり、満天の空にこぼれんばかりの星が煌いていた。慎重に運転しつつ、それでも6時一寸前には大樹町営晩成温泉に到着だ。既に乗用車が10台かそれ以上だろうか、駐車している。何処にも好き者は居るようだ。

所定時間よりも早くオープンしたようだ。入浴券を買おうと並んでいると、町長が陣頭指揮のために現場進出したのだろう。町民と新年の挨拶を交わしている。町長への挨拶後、浴場に向かう、先客は1名のみである。日の出までに昨年の屈託を雪ぐべく、眼前に広がる太平洋を眺めつつの入浴である。晩成温泉も所謂モール温泉である。新年の禊だ。そうこうする内に次第に客が多くなる。

水平線上には残念ながらそれ程厚くはないものの雲が横たわっている。日の出の時間は7時を過ぎるのであろうか。

浴槽のすぐ外は雪原、その向こうには海原が広がり、旭日の昇る付近は心なしか明るくなり始める。浴槽の縁には人が肩を接するが如くに連なって、近頃はやりの足湯の状態である。浴槽の中にも洗い場にも人が溢れはじめ、日の出を今や遅しと待ち構える。

汀線から以遠、手前は海が白っぽく、沖に行くに従い次第に暗い海になっている。空は次第にオレンジ色のグラデーションになっている。

日の出である。神々しいまでの初日である。思わずに観客・入浴客からどよめきに近い歓声が興り、拍手する人がいるかと思えば、中には拍手を打つ人も。

小生は、初日の出が雲間に顕れるのを確認して、凍てつく外に出てシャッターを押す。火照った体は、寒さを余り感じないから不思議だ。タオルが凍りつく程ではないが、直ぐに冷たくなる。更に、コンクリートの上に直に立っているの、足が冷たくなり、ジンジンとしてきて、我慢できなくなる。

素裸で、やや不謹慎かも知れぬが、初日に国家安寧・五穀豊穰、我が数多の知り人に幸多きこととイラク派遣予定隊員諸官を含む第 5 師団の全隊員諸官にとって平成 16 年、2004 年が素晴らしい年であることを祈念した。穏やかな元旦は、この一年の幸先良さを現してくれているものと確信する。

その頃には脱衣場も人・人ばかりで、大盛況である。のんびりと温泉に浸りながら初日の出を拝めるなんて、なんて日本は素晴らしい国なのだろう。

今日のニュースに拠れば、襟裳岬からは水平線から昇る初日が観測出来たというが、道内の他の地域は残念ながら結構厚い雲に邪魔されたようだ。